

令和6年度第1回小林市地域公共交通活性化協議会・地域公共交通会議 会議要旨

開催日時：令和6年5月23日（木） 10時00分～11時30分

開催場所：小林市役所3階 第3会議室

出席者等：出席委員14人、代理出席1人、欠席委員3人、事務局3人

【会議要旨】 ※〔〕内は話者

1. 開会〔事務局〕

2. 会長あいさつ〔会長〕

地域公共交通の現状は、人口減少や少子高齢化の進行、また運転手不足の深刻化などにより、その維持や確保が容易でない。また、利用者数が新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少し、コロナ禍前までは回復が見込めていない状況にある。

本市においても、大変厳しい状況であり、単なる交通分野の課題に留まらず、まちづくりや観光振興、福祉、教育分野など、市民生活に大きな影響を与えるものと危惧している。

地域公共交通については、「小林市地域公共交通計画」に基づく取組を実施していくこととしている。非常に難しい課題ではあるが、多様な連携や、横断的な連携により、持続可能な公共交通を目指して、丁寧かつ確実に取り組んでいくことが大切である。皆様のご意見を賜りながら、皆様と一体となって取り組んでまいりたいため、引き続き、御理解・御支援をお願いしたい。

3. 委員及び事務局職員自己紹介〔委員、事務局〕

4. 報告

（1）小林市地域公共交通活性化協議会及び地域公共交通会議概要について

【事前配布資料1 P1～4】

5. 議事

（1）小林市の公共交通事業の令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画並びに評価について【事前配布資料2 P5～10】【当日配布資料 P1～7】

＜質疑＞ なし

◆原案承認

（2）小林市地域公共交通計画の改正について【事前配布資料3 P11～17】

国から市コミュニティバスの補助を受けるための改正として別添資料を策定すること、計画内容には変更がないことについて説明。

＜質疑＞

〔Q. A委員〕

評価指標について、現状値（令和3年度）より下がる目標となっているものがあるが、目標は現状値から向上させるために設定するものではないのか。

〔A. 事務局〕

小林市公共交通計画は公共交通の利用者が激減したコロナ禍である令和3年度に作成したため、5年間（令和4年度～令和8年度）の計画期間でコロナ禍前の令和元年度の状態に回復させるという目標設定になっている。しかし、JR吉都線の利用者数については、通学利用者数の影響を大きく受けるため、少子化が進む中で利用者数を増やすことは難しいと判断し、利用促進等により減少幅を少なくするという目標設定としている。

◆原案承認

(3) 令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画について【事前配布資料4 P18～27】

国から市コミュニティバスの補助を受けるために必要な計画であること、路線ごとの目標、国庫補助金の算出方法について、概要を説明。

◆原案承認

(4) 自家用有償旅客運送（コミュニティバス）の更新登録について【資料5】

市コミュニティバスの運行に係る自家用有償旅客運送許可の更新登録。3年に一回の更新が必要である。

◆原案承認

5. その他

①交通と福祉の連携について（事務局）【当日配布資料 P8～9】

真に移動支援が必要な市民がどの程度いるのか、そのような方にどのような移動支援をすることが最適なのか等について、各公共交通施策を実施している担当課及び各種データに精通している課等の担当で研究・検討を行う。

〔B委員〕

いつまでに研究・検討を完了するというスケジュールを示して欲しい。

〔事務局〕

今年度はあくまでも市内公共交通会議担当者会を実施し、研究・検討に取りかかることとしており、現時点でスケジュールを提示することは難しいと考えている。研究・検討内容等については、今後の会議で共有させていただきたい。

〔C委員〕

タクシー協会としても地域公共交通をどのように支えたらよいか模索しているが、利用者の利便性だけを求めると公共交通市場が壊れてしまう危険性があることを理解いただきたい。また、障がい者の方が利用しやすいユニバーサルデザイン車両の導入についても検討する必要があると考えている。

〔D委員〕

移動手段がなく困っている方は沢山いる。移動支援を利用することで生活の幅が広がった。交通と福祉の連携は重要であるため、関係者間で連携して協議を進めていただきたい。

②バスの利用状況等について（宮崎交通株式会社）

路線バスの利用状況は、昨年度よりは増加しているもののコロナ禍前の利用者数までは戻っていない。

昨年10月から実施しているシニアパスについては、小林市民対象者の約1割の方が申し込んでいる。全体的に長い距離の移動で利用している方が多い。事業継続については、利用状況等を分析した上で、県・市町村と協議させていただきたいと考えている。

〔A委員〕

シニアパスは利用者に好評である。ぜひ継続していただきたいが、乗車料金200円は安すぎるため見直してもよいのでは。この事業は国からの補助はあるのか。

〔宮崎交通〕

シニアパスは県の事業として実施しており、国の補助はない。料金の妥当性も含め事業継続について検討する。

③鉄道の利用状況等について（ＪＲ九州宮崎支社）

昨年度は 110 周年のイベントやサイクルトレインなど協力させていただいた。今年度も同様に、利用促進イベントを計画中のため協力いただきたい。

2022 年度の利用状況は前年度比 99.2%で微減であった。コロナ禍前の状況に戻すためにも通学利用の促進をしたい。

今年度は利用者アンケートを実施予定。アンケート結果を基に利用ニーズに沿ったダイヤ改正等を行いたい。

〔Ｅ委員〕

週末のお出かけで吉都線を利用したくても午前中の便が少ない。ダイヤの見直し等お願いしたい。

6. 閉会〔事務局〕